

## 教育実習Ⅶ（幼）の報告

広島文教大学教育学部

教育学科 准教授 牧 亮 太

## 1 はじめに

幼稚園教諭一種免許状を取得しようとする学生を対象とした「教育実習Ⅶ（幼）」は、本学初等教育学科幼児教育コースに所属する学生が初めて保育の現場に触れる授業である。その目的は、幼稚園教育の実際に触れて保育を理解すること、教職への意欲を高めることである。

## 2 実施のスケジュール

項目	時期	主な内容
オリエンテーション	4月	・本実習の意義・目的・心構え等を確認する。 ・本実習の流れ、実習①～③の目的、実習の手続き等を確認する。
実習①	4～5月	【事前学修】課題の確認をする。 【実習】幼児教育の実態を知ることが目的とした観察実習を行う。 【事後学修】幼稚園の1日を確認する。興味をもった事例にタイトルをつけ、整理する。エピソード記述の書き方を学修する。
実習②	5～6月	【事前学修】エピソード記述を読み、他者の視点を知る。目標を設定し、日誌の書き方を学修する。 【実習】設定した目標を中心とした観察および参加実習を行う。 【事後学修】他者のエピソードをもとに、他者とは異なる視点からの考察を考へてみる。日誌を書く上での要点を整理する。
実習③	6～7月	【事前学修】実習②での気づきをもとに目標を設定する。お礼状の書き方等を確認する。 【実習】設定した目標を中心とした観察および参加実習を行う。 【事後学修】グループでエピソードを1つ選び、討議を行い、報告会用の資料を作成する。
報告会	7月	・事例をもとにして、実習③での気づきを発表する。質疑応答を通して、気づき・学びを深める。
まとめ	8月	・報告会での学びを確認し、授業全体のふりかえりを行う。

## 3 活動の概要

## (1) 各実習の概要

段階的に学びを深めていくために、実習ごとにねらいを設定した。実習①では、幼稚園における幼児の姿を知ること、幼児の様子を観察するなかで生じる思考・感情に自覚的になり記述することの2点、実習②では子どもの気持ちを推測しながら事例を記述すること、事例をもとにグループ討議を行

い、自分たちなりの結論を導くことの2点、実習③では、自分たちが導いた結論を具体的事実や省察に基づきながら他者に論理的に説明することの1点であった。

## (2) 教育実習Ⅶを通して子どもについて学んだこと（学生の報告書より抜粋）

- ・教育実習では色々な子どもの姿をみることができた。言葉を発しないで違うことで保育者や実習生にわかってもらおうとする子ども、子ども同士の助け合い、一人一人に個性があって、授業では学べない子どもの姿を見ることができた。
- ・3回の観察実習を通して子ども達を見てきて、子どもは興味の引かれたものによく挑戦し、やろうとしたことはしっかり保育者の話を聞き学んでいた。いつも何に対しても純粋に楽しみ、真剣であると思った。
- ・私は実習前、子どもは、小さくて、可愛くて、弱くて、できないことばかりであると思っていた。だが、教育実習Ⅶを通して、子どもは、小さくても、沢山考えていて、沢山のことに挑戦でき、日々成長していくということがわかった。
- ・教育実習Ⅶを通して、年齢による子どもの感情のコントロールや表現の仕方の違いについて学びました。年少児は自分の思いをそのまま口にしたり、嫌なことがあると泣いたりして自分の感情を他者に伝えていました。年齢が大きくなるにつれて、嫌なことや思い通りにならなかったことがあったとしても、そのまま感情を出すのではなくどうすればいいのだろうと考えて行動して、他者に思いやりのある行動が増えていると感じました。
- ・実習後の話し合いから一つ一つの事例を深く考え、子どもの気持ちや考え方、行動について考えることで、私たちが考えることとは全く違った視点で子どもは見たり考えたりしていることも知ることができました。子どもと大人の見方、考え方が違うため、子どもの視点でも考えてみることの大切さにも気づくことができました。

## (3) 教育実習Ⅶを通して気づいた幼稚園教諭という仕事の魅力（学生の報告書より抜粋）

- ・幼稚園教諭として毎日働いていると「昨日までできなかったことができるようになった。」「友達と関わるのが苦手だった子どもが仲良く遊べるようになった。」など、毎日色々な発見や成長を感じられるところが魅力だと考えた。
- ・幼稚園教諭の仕事の魅力は、子どもの成長を近くで見ることが出来ることだと感じました。また、子どもと一緒に幼稚園教諭自身が成長できることも幼稚園教諭の魅力だと感じました。例えば、子どもたちが葛藤して努力しながら、成長していく過程を幼稚園教諭がサポートする際に、子どもたちとの向き合い方を考え、工夫する事で成長できると感じました。さらに、他の幼稚園教諭と意見を共有し、自分が成長できるところも幼稚園教諭のやりがいだと思いました。

## 4 成果と課題

昨年度の課題であった報告会について、グループ内で役割分担を決めておくことで比較的スムーズに運営することができた。また、各グループの発表に対して積極的に質問をする学生の姿が見られた。各実習後のグループワークの段階から、教員側から学生たちに質問を投げかけたり、あるいは学生側から疑問を引き出したりすること意識的に取り組んできた結果が、報告会につながったといえる。

カリキュラムの改訂により今年度で「教育委実習Ⅶ（幼）」は閉講となる。本科目での取り組みを精査したうえで、後進の「幼児の理解」「幼児教育の体験活動」が学生の子ども理解や現場理解を深め、教職に対する意欲を高められるような科目となるよう努めていきたい。